

潮音寺だより

第 271 号
平成 18 年 5 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



見色皆真色 聞音悉法音

いろ色を見れば
みなしんじき皆真色

こえ音を聞けば
ことごとくほつおん悉く法音

出典 善導大師『往生礼讃』

美しいもの
善い行いに感動し

そして
本当のものが見え

真実の音が聞けるのは

それは

あなたの心が
澄んでいるからです

飛天（楽伎天）：潮音寺什物

衰かひ死なつて體

人が老いて命の終わりが近づいてくると、まず体が衰弱してくへくへではいつして衰の字に衣があるのか。「衰」は死者の襟もとに麻の組ひもを飾つて廢除けとしたことを字に示した。葬礼の時には、口常の礼を控へるので、控えて少なくなることをあらわし、それが衰微の意味へ変化したものだ。

次に「憔悴」(ニヤセアヒシメシイ)の「憔」。焦は火の上で鳥が焼けて肉が縮むこと。そこから憔は心が焼け体が縮むこと。悴の卒は死者の襟もつを結ぶ形で、憔悴は死に近い状態をあらわす。

「危篤」は病気が非常に重く、命があぶないことである。「篤」は馬が疲れるの意味やてあつたことの意味があるが、病気が重いつつという意味もある。「瀕死」の重体といつが、「瀕」は水際のこと、死が際まで迫つてしまつたことである。「臨終」は同じく死に際まで、終わら

「臨む」は死ぬ。

そして死。「死」は偏の部分のタの上にくが組合わさつた人の残骨の形、右のつくりの部分は「人」でその骨を拝してこの形で、死者をまつ意味であるといふ。

同じハシと発音する「屍」は尸と死が組合わされた形である。死して葬らない間は、尸(かたし)をたてることがないので、屍はまだ完全に魂が抜けきつていない遺体といつことがいえるのではないだろうか。かたしとは死者の霊の言葉や語る霊媒のこと、かつては子供がその役目をした。

さて死者の靈魂は肉体から離れてあの世へと旅立つのであるが、霊の旧字は「靈」と書き、巫女(ウラハシ)の雨ごいの儀礼をあらわした。そののち神靈を降すのも同じ儀礼が行われるので、靈は神靈のことを指すようになったといふ。

次に「魂」である。魂は云と鬼(ゴ)の字からなつてゐる。云は靈氣のこと、中

国では魂魄(タマシ)といひ、死者の魂は雲のように上に昇り、魄は魂の重い部分として、地の中に同化するものと云われている。魄の白は生気を失つた頭骨の形である。

次に死をあらわす言葉に逝去、終焉などがあるが、「逝去(シキ)」「これは他人の死の尊敬語であるが、「逝」はひつとりと折れるようにいつてしまつた。「終焉」は死に臨むこと。末期の意味である。「焉」の文字は、えんといつ鳥の事、終わることの意味はない。

「卒」といつ字は「卒去」(そつきよ)＝一般の人の死、「卒年」(死したときの年齢)など死と関係の深いことである。これは死者の襟を結び留めた形で、死者の霊が迷い出ることを防いだといふ。「斃」は人がたれ死ぬことをいふ。斃は布が古びてだめになることであり、斃は疲れて倒れ死ぬこと。死「の」には死者の足を曲げている形といわねるが、「漢字源」では人を衡(はかり)で隠し見え

なぐなぐの意味がついてくる。

戦歿者などの「歿」ははくろひが水に没する事だ。水に死んだ事だから見えないようなことを意味する。

「訃報」の訃の字は、人が死んだことを急いで知らせるという意味であるが、へらの「へ」はくろひの訓を、田を死の意味はなぐ。

「故人」の故の文字は固まって固まった事実で、くろひなこの意味である。故人を死んでしまった人の意味に用いているのは日本語で、故〇〇とよめるのも日本の用法である。また物故者の物故は中国の古典にみられるが、諸物はじつじつとくろひなるため「故」となった。

死が発生するときに葬儀の準備から始まる。しかし死を怠げようとすると考えられた長い歴史がある。「忌」(忌み、くさ)の「口」は『漢字源』に「くさ、はくろひ」といふ注意をうへ、田の形は忌は心に抵抗が起きると受け入れられないことである。忌が使用される語に「忌口」「忌み」

＝親の命口。事を行なうのに忌み避ける口。「忌中」＝喪に服している期間。人の死後49日間。「忌服」＝喪に服している期間。忌は家で慎む期間、服は仕事しながら慎む期間。「忌憚」(憚りでキョともいふ)＝命口で諱(諱)＝死んだ王の名。

「忌みなり」。忌みわけ。「忌辰」＝死者の命口なきがある。「凶」。「凶」は胸に入れ墨をした形で、横死者の遺体の胸に入れ墨をして、その霊の災いを防いだといふ。「喪」は哭と「亡」からなる字で、死者を送って「亡」に泣くこと。「喪礼」は葬儀や喪中の礼法。「葬」の字は草むらに遺体を遺棄して、風化したものをあらためて葬ること。これは漢字が出来た当時、複雑が行われていたことを示すものである。手あつく葬ものを「厚葬」、簡単に「行」のを「薄葬」といふ。

「葬」は矢に糸をまきつけたものの形で、屍を野に捨て、その骨を拾つて「土」を葬ったの「土葬」といふ。「土葬」

＝死者を弔い、遺族を慰めること。さて、次は遺体を「棺」に入れる順となるが、棺は遺体を布でくくって納める木製の箱。官は館の原字で、周囲を塙で取り巻いた館。「柩」の久は遺体を後から支える形。それを納めたものが柩である。「殯」は賓、つまり主人に次ぐ位の客をあらわす。そこで殯は死者に対して客のよびに大切に扱った。

「墳墓」の墳は土を盛り上げて作った墓。「墓」の莫の字は又暮れや暗黒の意味がある。墓はくろひは地下に作られ、土を盛るとはなかつたといふ。墓には「碑」がくきものであるが、これは立てた石で、墓穴に棺を下すときの石の穴をあけてそこに紐を通して下ろしたといふ。のちに墓に経歴が記されるようになった。古い石碑にはあつた穴が開いていて、石碑に刻まれている「諱」は死んだ人の功績につける名。「諱」は生前の功績を賛えつづける称号。

「墓」は土を盛り上げて作った墓。「墓」の莫の字は又暮れや暗黒の意味がある。墓はくろひは地下に作られ、土を盛るとはなかつたといふ。墓には「碑」がくきものであるが、これは立てた石で、墓穴に棺を下すときの石の穴をあけてそこに紐を通して下ろしたといふ。のちに墓に経歴が記されるようになった。古い石碑にはあつた穴が開いていて、石碑に刻まれている「諱」は死んだ人の功績につける名。「諱」は生前の功績を賛えつづける称号。

「諱」は生前の功績を賛えつづける称号。

◎工事状況報告

四月十八日現在、本堂及び位牌堂の屋根葺き工事は60〜70%程度仕上がっております。また、外壁のタイル貼りや塗装は、五月初旬までには終わり、そうすれば足場もネットもとれる予定です。

内部工事の方も、エレベーター・水道やガスや電気関連・窓ガラスなど、入れ替り立ち替りいろいろな業者さんが出て来ては、忙しく仕事を進めて頂いております。雨天が多いので、やや心配な向きもありますが、ほぼ順調に工事は進んできております。



雑記

▼タンポポ

タンポポには、大きく分けて

「在来種」と「帰化種」の二種類あるそうです。



在来種



帰化種

その見分け方のキーワードは、あのイナバウアー!?

花の下の部分の萼片くさびが反り返っているのが「帰化種」ということです。繁殖力が強く、この辺りで散歩中見かけるのは、ほとんどが「帰化種」のようです。

▼雑草

タンポポにかぎらず、この時季の雑草は、生気が漲もたっています。初老の身にはつらやましい…。

▼若草に掛け声もらい

歩く道 沐魚